霧島あっちこっち縦走

【報　告　者】高橋こ

霧島縦走といえば「えびの高原～高千穂河原」というのが一般的な中で、そのラインから外れてひっそりと伸びる別の道が気になってました。それは夷守岳から大幡池経由、獅子戸岳で上記の縦走路に合流するラインであり、また高千穂峰北側の矢岳とその周辺に走るいくつもの破線でした。(1/25000 を見てみよう！)

●６月７日　高千穂峰　往復　●高橋こ、よ　　●曇りのち雨

●霧島東神社 08:00－高千穂峰 11:30－霧島東神社 13:00

当初は山中 1 泊の周回コースを計画したが、やはり梅雨時、ガスのため山容がほとんど見えず、急遽高千穂峰の往復に切り替え。初めてになる霧島東神社からのコースは、高千穂河原からの砂礫のコースとは全く違う樹林帯歩き。西側ピークの二子石手前からは展望も開け、ミヤマキリシマらの点在する平原歩きもあり楽しめます…天気よければ。それなのにこのコースに人が少ない理由は、「ヒル」の存在でしょう。自分はある程度予想してたけど予想外なのが連れの反応で、もしこの山行を２パートに分けるとしたら「ヒルに遭う前」「ヒルに遭った後」というくらい、下山時には見たことのない速さで駆け下りて行き、ヒル地帯に一人置いていかれた苦い思い出が。

●６月１３日　矢岳、竜王岳　●高橋こ　　●晴れ

●矢岳登山口－(沢越えコース)－矢岳－竜王岳往復－(リンナイ林道)－矢岳登山口

宮崎に出張ついでに矢岳の登山口を下見に。この地を歩く者でお世話にならない人はいないと思われる「大幡山岳会」の的確な看板に導かれ、登山口の広場はすぐ分かった。時間も早いし登山道の下見でもすっかと、ちょっと登り始め、難所と言われる沢への急下降も下見。赤テープ頼りに登り返し、傾斜が緩んだところで単独行の男性に会う。ガイドもしているその方に矢岳の見所を教えてもらいつつ、結局山頂まで下見してしまった…。ちなみに矢岳はミカエリソウやヤマボウシで有名らしく、それぞれのシーズンには結構な人が訪れるそうです。ただミカエリソウの株数はぐっと少なくなったとのこと。

稜線続きの竜王岳、ふたつの鞍部からの下山路などなども下見(もういいか)しつつ、下山。この成果はいずれ会に還元しますのでご容赦ください…。

●７月６日　霧島縦走　●高橋こ　　●快晴

●夷守岳登山口 07:00－夷守岳 8:30－大幡池 10:00－獅子戸分岐－新燃岳 12:05－高千穂河原 13:00－高千穂峰 15:15－天孫降臨登山口 16:15

いくつかの山行を経て、いよいよ「霧島うねうね縦走」決行。

スタートの夷守岳は、生駒高原から見ると優雅に裾を広げた独立峰に見えて気持ちが盛り上がる、がその登山道は急坂続きで標高差約８００ｍ、朝イチの重い体にはかなりこたえる。体力的な核心はまさにここで、登り切ればあとはお楽しみが待つのみ。丸岡山への急坂を下ると、あとは緩やかなアップダウンの中を快適に歩ける。樹林の間から青く光る大幡池が望めると、そこからがこのコースのハイライト。荒々しい新燃岳の火口湖に比べると、あくまで穏やかに広がる大幡池。韓国岳を望みながら波打ち際を歩き、振り返ってもどこにも人の気配はない。ここでタープ張って、泳いで、焚火して･･･あー夢が広がるよ。夏に沢をからめて誰か行かないかな？

【大幡池から韓国岳を望む】

名残惜しく池を離れても、大幡山手前からは右に韓国岳、左に高千穂峰を望みながらの展望抜群の稜線歩きが始まる。獅子戸岳への分岐までの至福の時間だった。

一般縦走路に合流し、一気に増えた登山者に混じりながら高千穂河原に下りて１３時。予定ではここで泊も、こんな真っ昼間の暑い中ではとても時間を潰せる気がしない。初日からの飛ばし過ぎは気になるが、ここは計画を前倒しして高千穂峰越えまで行くことに。午後の凶悪な日差しが背後から照りつける中、「１歩進んで２歩下がる」高千穂名物火山灰の登りは遅々として進まない。すれ違う人もなくなってようやく山頂に着くもバテバテ。ここで山頂にひとり残っていた単独行のＭさんと知り合う。同じ下山口に車があるから乗っていきなさいと。ちなみにこれから下りる天孫降臨登山口から矢岳登山口までは、事前の調べでもはっきりした道が分からなかった部分。もちろん舗装された林道を歩けばたどり着くが、かなりの迂回となる。ヤブ漕ぎ覚悟でショートカットするかと思っていただけに、Ｍさんの申し出を有り難く受けることにした。しかも温泉にも誘ってもらった。自分では砂防堤の水溜りで体拭こうかなくら

いにしか考えていなかったけど、Mさんいわく「そんなとこで浮いてたら誰も気付かないよ」だって。

シェルパでガイドもしているというMさんと出会って現金にも急に元気が復活、下山路を駆け下り温泉に直行。予備の服に着替え水分補給も済まし、矢岳の登山口へとスムーズすぎるほどの展開。あとは、明日の行程を考えつつ１人ビールで乾杯しようと思っていた。時刻は１８時になろうとしていた。

テントを張る間もなく、甲高いサイレンとともに救急車両が。聞けば明日行く予定の炭火木(という場所)で熱中症で動けなくなっている登山者の救助に向かうとのこと。少しでも手助けになればとMさんと救助隊に同行する。上空にはヘリも到着しているが、谷沿いでもあり、ピックアップ場所もこの山域を知らないと困難。先導する地元山岳会の方が暗くなりかけている中を的確に指示し、レスキュー道具を背負った救助隊とともに早足で登っていく。１時間で現場着、ちょうどヘリも何とか開けた場所からピックアップ終わった後で、運ばれた登山者の夫や仲間たちが頭を下げていた。

ヘッデンで下山後、気持ちの揺れを見透かされたようにMさんからの提案で、結局車まで送ってもらい、縦走は切り上げ明日は疲れ具合を見ての日帰りとすることにした。歩けなかった道は、秋にもう一度。

●７月７日　韓国岳周回　●高橋こ　　●快晴！

●韓国岳登山口－韓国岳山頂－火口壁ピーク－硫黄山－韓国岳登山口

Mさんから、韓国岳の火口壁ピークに行ってみないかと誘われた。初めてのコースでもあり、ちょうど山頂からお鉢を挟んで反対側にあるピークは、岩肌の迫力がモノ凄い。写真も撮るMさんの解説つきでひとまず韓国岳山頂に着くと、昨日にも増しての快晴の中、眼前に迫る高千穂峰はもちろん、開聞岳や屋久島の目立つ２つのピークまでがキレイに見えていた。
火口壁には意外としっかりした踏み跡があり、ササ藪のトンネルを抜けるとケルンの立つピーク。強風を耐えるミヤマキリシマの群落が自然と丸く寄り添っている。

【山頂の真向かいが火口壁のピーク】

ここから先は三股山の直登に匹敵する直滑降。しかも左手はすっぱりと切れ落ちていて高度感ありあり。でもだからこそ普段の道からは見えない４つの池を眼下に望む絶景を楽しめました。このルート、下からの入り口は硫黄山の奥。ここも今度行きましょうかね。

シェルパのツアーバスが着き、白鳥、甑岳へのガイドに再び登るＭさん(タフです･･･)と別れて考える。つながりってあるなと。いくつかの偶然によってこの山行は、自分の全く想像してなかった展開になった。計画通りにはいかなかったけれど、つながりを手繰って行った今回の山行は、自分の中に久しぶりに強い印象を残した。

新しく手に入れたお土産と、やり残した宿題。まだしばらくは霧島を楽しめそうです。

【霧島縦走のシンボル、高千穂峰。両手を広げた姿は槍にも負けてない！？】